

荻窪消防団が全国大会での健闘を誓う

8日、杉並区役所に荻窪消防団のメンバーが訪れ、先日開催された第47回東京都消防操法大会での優勝の報告をするとともに、来年10月、富山県富山市で開催される全国大会での健闘を誓いました。荻窪消防団は、可搬ポンプの部で、悲願の初優勝を果たしました。

消防団は、江戸時代の町火消から、消防組、警防団、そして昭和 22 年に現在の名称となりました。どの時代でも、いざという時にいち早く火事場に駆け付け、町の安全と安心に欠くことのできない存在でした。消防団員は、非常勤の特別職地方公務員の身分で、普段は自営業などの仕事をし、災害があれば出動することになっています。総務省消防庁の資料によると、平成 28 年 4 月 1 日現在、全国で 2,211 の消防団で、856,278 人の団員が活動しています。

杉並区内でも、杉並消防団（定員 400 名）、荻窪消防団（定員 350 名）が活動しています。いずれの消防団も、商店などの自営業が減り会社勤めが多くなったことや地縁関係が薄れたことで、担い手不足が悩みとなっています。

しかし、災害は何時、どこで起きるかわかりません。東京でも首都直下地震の発生が懸念されています。こうした不測の事態に備え、日々の訓練に励んでいます。こうした訓練の成果を披露する場として、消防操法大会があります。10月21日に行われた東京都消防操法大会の可搬ポンプの部に、荻窪消防団第一分団のメンバーが出場し、参加した15団の頂点に立ちました。荻窪消防団は平成22年に準優勝は経験していましたが、今回は悲願の初優勝となりました。可搬ポンプは、消防車が入れないような場所での消火活動に用いるもので、人力で持ち運びをするものです。狭い道が多い、23区などでは初期消火に欠かせないものです。

8日午後4時30分、大会に出場した6名の選手などが区役所を訪れ、田中良区長に大会での初優勝の喜びを報告するとともに、東京都の代表に恥じない全国大会での健闘を誓いました。

